

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ネオカルオキシ
供給者の会社名	保土谷化学工業株式会社
住所	〒104-0028 東京都中央区八重洲2-4-1 常和八重洲ビル9階
担当部門	パーオキサイド事業部
電話番号	03-5299-8140
FAX番号	03-5299-8266
電子メールアドレス	peroxide@hodogaya.co.jp
緊急連絡電話番号	024-944-1405(郡山工場 受付 夜間・土日祝日)

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類区分

物理化学的危険性	酸化性固体	区分3
健康有害性	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分外 区分外 区分1 区分1 区分1呼吸器系 区分2肺
環境有害性	水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(長期間)	区分外 区分外

#### GHSラベル要素 絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H272 火災助長のおそれ:酸化性物質 H314 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 H370 呼吸器系の障害 H373 長期にわたる、又は反復暴露による肺の障害のおそれ

#### 注意書き 安全対策

すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)  
熱から遠ざけること。(P210)  
衣類及び他の可燃物から遠ざけること。(P220)  
可燃物及び禁忌物質との混合を回避するために予防策を取ること。(P221)  
粉じんを吸入しないこと。(P260)  
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)  
環境への放出を避けること。(P273)

応急措置	<p>皮膚又は毛に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)</p> <p>皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。(P310)</p> <p>汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。(P363)</p> <p>飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P301+P312)</p> <p>吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P304+P312)</p> <p>眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>眼に入った場合、直ちに医師に連絡すること。(P310)</p>
保管	日光から遮断し、換気の良い場所で保管すること。(P410+P403)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別  
化学名又は一般名

混合物  
過酸化カルシウム、水酸化カルシウムの混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	官報公示番号		CAS番号
		化審法	安衛法	
水酸化カルシウム	34.00 %	(1)-181	化審法と同じ	1305-62-0
表面処理炭酸カルシウム	34.00 %		2-(4)-899	471-34-1
過酸化カルシウム	24.00 %	(1)-190	化審法と同じ	1305-79-9

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)	水酸化カルシウム	(法令指定番号:317)	(34 %)
---------	--	----------	--------------	--------

### 4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 医師の手当て、診断を受けること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹼で洗うこと。
眼に入った場合	清浄な流水で最低15分間目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当てを受ける。洗眼の際は、まぶたを指でよく開いて眼球、まぶたのすみずみまで水がよくいき渡るように洗う。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 医師の手当て、診断を受けること。

### 5. 火災時の措置

消火剤	水
-----	---

使ってはならない消火剤	粉末消火剤、泡消火薬剤
特有の危険有害性	それ自身は燃えないが、支燃性である。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、周辺火災に応じて適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. 暴露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	除去後、汚染現場を水で完全に洗浄する。 物質を吸込み又は掃き取って廃棄用容器に入れること。 大量の場合、漏洩物の除去や廃棄処理は専門家の指示による。 少量の場合、漏洩区域を大量の水で洗い流す。
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 可燃物(木、紙、油等)は漏洩物から隔離する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
	安全取扱注意事項	取扱い後はよく手を洗うこと。 眼、皮膚に付けないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。
	接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
	衛生対策	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保管	安全な保管条件	容器は直射日光や火気を避けること。 換気の良い場所で保管すること。 燃焼性物質から離して保管すること。 ベントのついた容器で保管すること。 特別に技術的対策は必要としない。 『10. 安定性及び反応性』を参照。
	安全な容器包装材料	ポリエチレン袋

## 8. ばく露防止及び保護措置

## 管理濃度・許容濃度

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
水酸化カルシウム	設定されていない。	設定されていない。	TWA 5mg/m <sup>3</sup>
炭酸カルシウム	設定されていない。	設定されていない。	TWA 10mg/m <sup>3</sup>

設備対策 粉じんが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

保護具	呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な顔面用の保護具を着用すること。

## 9. 物理的及び化学的性質

外観	物理的状态 形状 色	固体 顆粒状 類白色
pH 比重(密度)		アルカリ性を示す。 0.75~0.94g/mL(見掛比重)
溶解度 その他		水に難溶 支燃性あり。

## 10. 安定性及び反応性

反応性	酸化性あり
化学的安定性	通常の取り扱いにおいては安定
危険有害反応可能性	種々の無機化合物を酸化し、有機化合物に対しても酸化作用がある。
避けるべき条件	高温、水分との接触。
混触危険物質	銅、鉄等の金属類
危険有害な分解生成物	酸素ガス(支燃性がある)

## 11. 有害性情報

急性毒性 経口(根拠)	本製品のLD50は5,000mg/kg以上と推定されるため、区分外とした。
経皮(根拠)	本製品のLD50は5,000mg/kg以上と推定されるため、区分外とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性(根拠)	製品の塩基性物質(pH $\geq$ 11.5)の濃度が34%以上のため、区分1とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性(根拠)	製品の塩基性物質(pH $\geq$ 11.5)の濃度が34%以上のため、区分1とした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)(根拠)	製品成分の区分1(呼吸器系)の濃度が34%のため、区分1(呼吸器系)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)(根拠) 製品成分の区分2(肺)の濃度が34%のため、区分2(肺)とした。

## 12. 環境影響情報

### 環境有害性

水生環境有害性(急性) 本製品のLC50は100mg/Lより大きいと推定されるため、区分外とした。

水生環境有害性(長期間) 急性有害性が区分外のため、区分外とした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 大量の水を加え、硝酸あるいは塩酸により中和した後、過酸化水素分を分解し(放置させ自然分解させるか、亜硫酸ナトリウム等の還元剤で処理)廃棄する。(過酸化水素はJISのCOD測定ではCOD値として検出される)

汚染容器及び包装 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	海上規制情報	IMOの規定に従う。
	UN No.	1479
	Proper Shipping Name	Oxidizing solid, n.o.s.
	Class	5.1
	Packing Group	III
	Marine Pollutant	Not Applicable
	Harmful Liquid Substances	Not applicable
	航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
	UN No.	1479
	Proper Shipping Name	Oxidizing solid, n.o.s.
国内規制	Class	5.1
	Packing Group	III
	海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
	国連番号	1479
	品名	その他の酸化性物質(固体)
	国連分類	5.1
	容器等級	III
	海洋汚染物質	非該当
MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当	

航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1479
品名	その他の酸化性物質(固体)
国連分類	5.1
等級	III

**特別の安全対策**

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。

移動の際に、転倒、衝撃、摩擦などを生じないように固定する。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

火気、熱気、直射日光に触れさせない。

**緊急時応急措置指針番号**

140

**15. 適用法令****道路法**

車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第7号・別表第2)

**労働安全衛生法**

危険物・酸化性の物(施行令別表第1第3号)

**労働安全衛生法**

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

**16. その他の情報****参考文献**

1)「危険物ハンドブック」347頁 丸善株式会社

2)日本ケミカルデータベース(株)「化学品総合データベース」

**その他**

記載内容は、現時点で当社が入手した資料・データ等に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、安全性を保証するものではありません。又、注意事項は通常の実施を前提としたもので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。